

# 2018年度海外日本語教育機関調査結果 (速報値)

2019年10月8日  
独立行政法人 国際交流基金

## ■ 調査目的

海外で日本語教育を行う機関の現状を把握し、主に以下の3つの観点から有用な情報を提供する。

- ①研究者などが、日本語教育に関する調査・研究を行う際の基礎資料
- ②日本語関係機関、国際交流団体などが、日本語教育に関する各種事業を実施する際の参考資料
- ③日本語教育機関・団体間の交流、ネットワーク形成を促進するための参考資料

## ■ 調査対象

海外で日本語教育を実施している機関が対象。以下は対象に含まれない。

- ①組織としての実体を伴わない団体(活動)
- ②在留邦人子弟向けの日本人学校
- ③不特定多数を対象に日本語教育を行っている放送局やWebサイト管理者
- ④短期的な日本語体験活動を実施する団体

## ■ 調査手法

各国語に翻訳した調査票によるアンケート調査。

国際交流基金海外拠点および各国・地域の日本国大使館、総領事館等が調査・分析を実施。  
(一部の国・地域では、外部機関との共同調査や外部機関への委託により実施)

## ■ 主な調査項目

調査項目	調査票の設問
機関の基本情報	機関名、所在地、連絡先
機関の性格	設置主体、教師育成課程の有無、授与学位の種類、 機関内での日本語教育の位置付け（正規科目or課外活動）
学習者	教育段階別（初等・中等・高等教育及び学校教育以外※）の日本語学習者の数
教師	日本語教師の数、日本語母語教師の数
日本語学習の目的・理由	「マンガ・アニメ等への興味」、「歴史・文学等への関心」等の17項目から複数選択
日本語教育の実施状況	「教師の数は十分か」、「教材は十分か」、「施設は整備されているか」等

※学校教育以外・・・民間の日本語学校、大学等が設置する学外者向け日本語講座、企業内研修等

## ■ 調査期間

2018年5月～2019年3月

※上記期間中に調査が終了しなかった一部の国については、2019年7月まで調査を実施

## ■ 回収率：96.89%

調査対象機関数 : 19,926機関

回答が得られた機関数 : 19,306機関（「日本語教育を実施していない」と回答のあった702機関を含む。）

## 過去最多の142の国・地域で 日本語教育の実施を確認

**機関数** : 18,604機関 (過去最多)  
**教師数** : 77,128人 (過去最多)  
**学習者数** : 3,846,773人 (再び増加)

[参考: 前回調査(2015年度)]

- ・ 137か国・地域で日本語教育の実施を確認
- ・ 機関数 : 16,179機関
- ・ 教師数 : 64,108人
- ・ 学習者数 : 3,655,024人

## 1. 過去最多の142か国・地域で日本語教育の実施を確認

- 前回比 5か国増：ジンバブエ、東ティモール、ベリーズ、モザンビーク、モンテネグロ

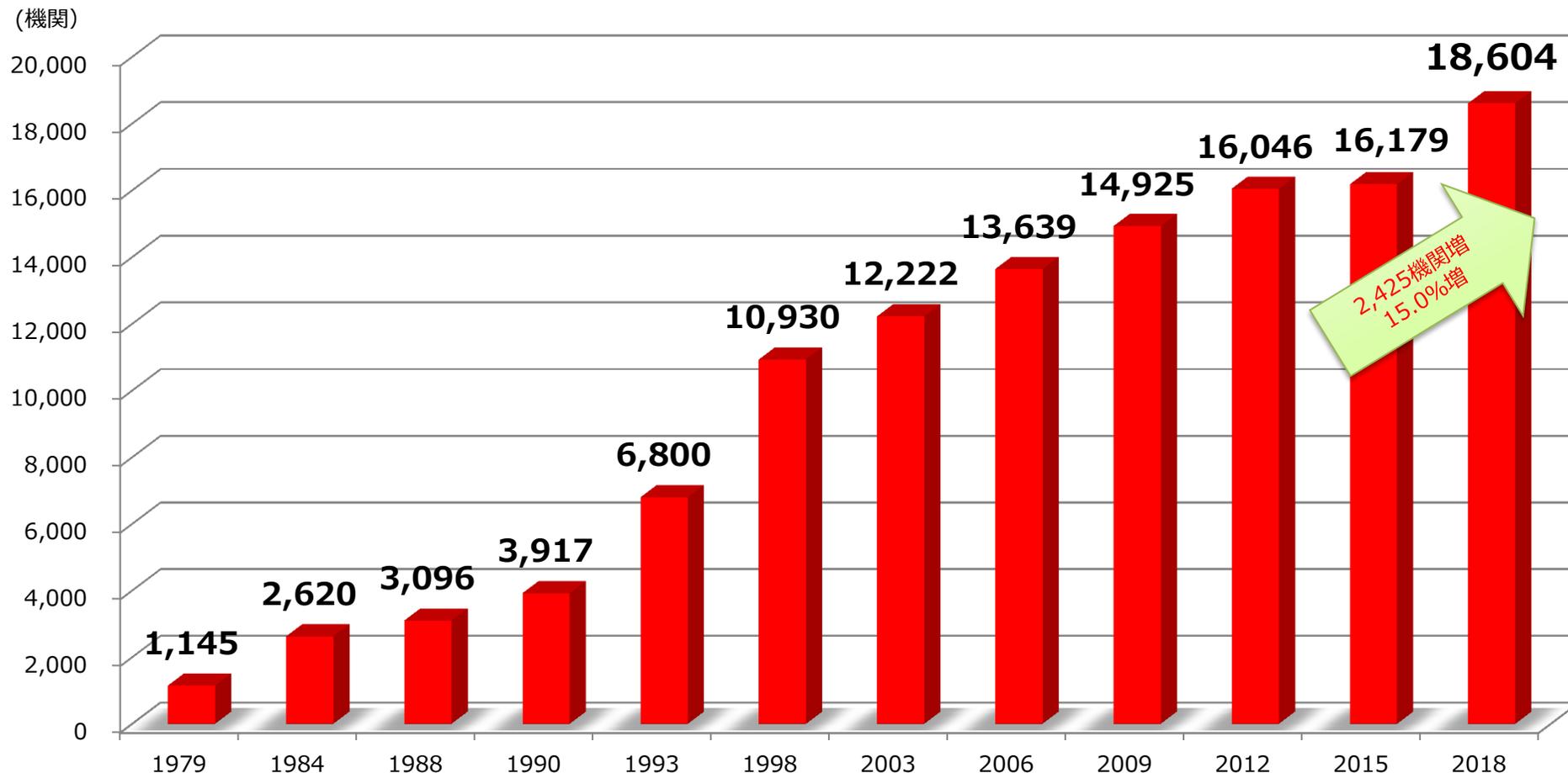
## 2. 全世界の「日本語教育機関数」と「日本語教師数」は過去最多

- 機関数・教師数ともにアジア地域での増加が目立つ
- 「機関数」 全世界 前回比15.0% (2,425機関) 増  
インドネシア、中国、ベトナム、ミャンマーで大幅増加
- 「教師数」 全世界 前回比20.3% (13,020人) 増  
ベトナム、ミャンマーで大幅増加

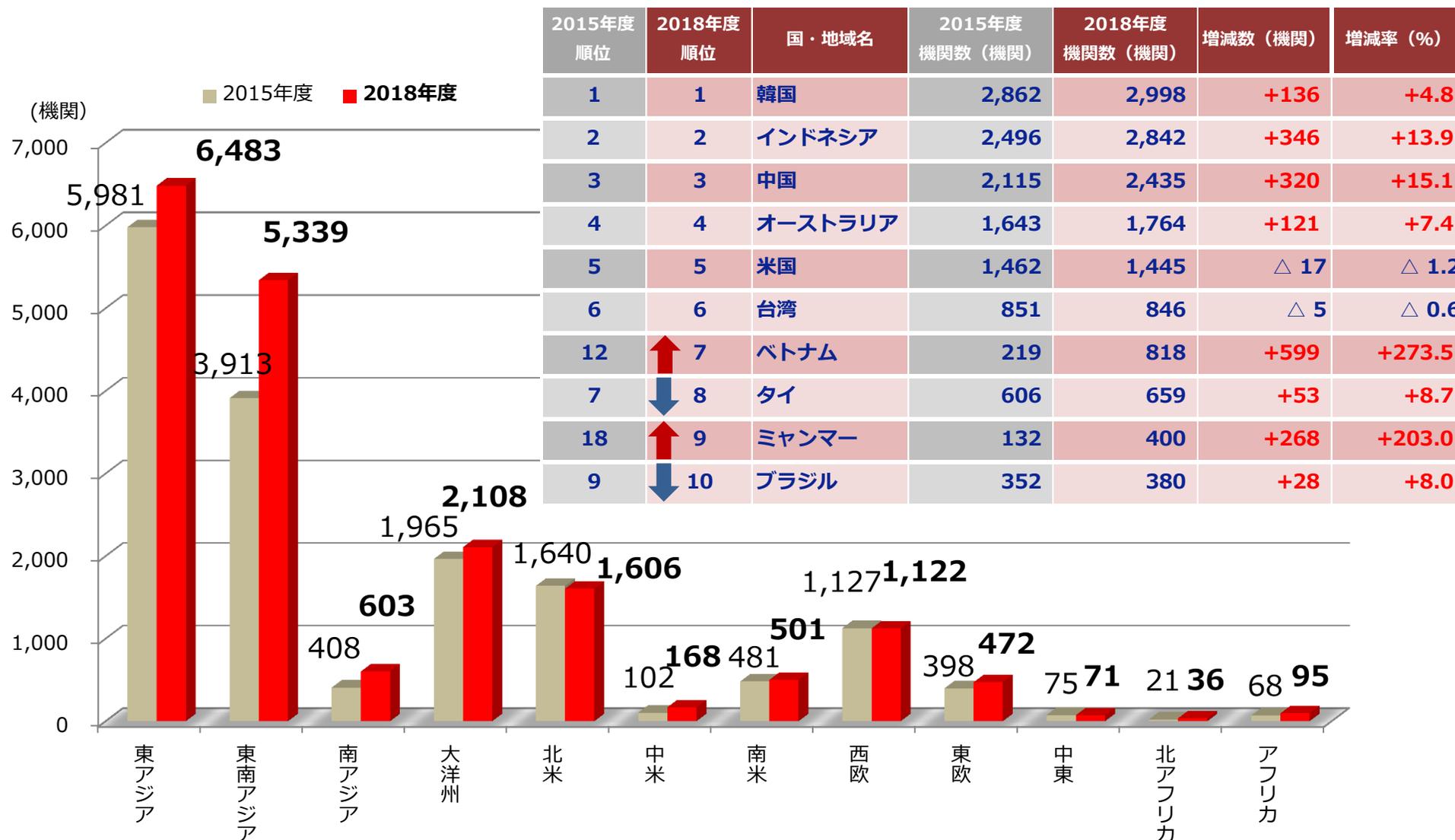
## 3. 全世界の「日本語学習者数」は再び増加し、約385万人に

- 2015年調査で学習者数が初めて減少。今回調査では前回比5.2% (191,749人) 増
- 学習者数は104か国・地域で増加、41か国・地域で減少
- 東アジアと北米以外の全ての地域で学習者数が増加  
増加：中国、オーストラリア、タイ、ベトナム等 減少：インドネシア、韓国、台湾等
- 「初等教育」前回比20.9% (57,778人) 増、「学校教育以外」同37.1% (224,963人) 増

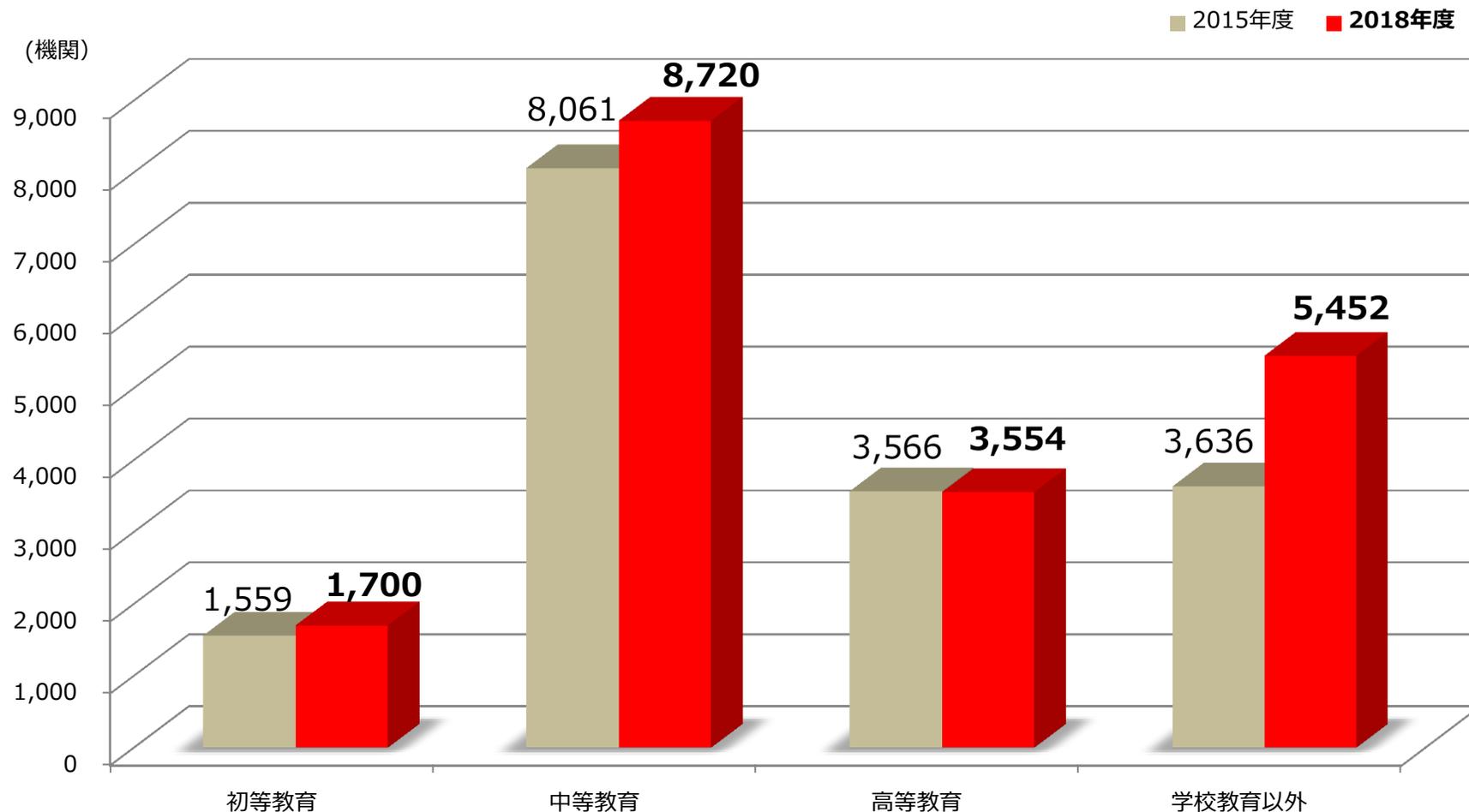
## 2. 機関数 1) 時系列推移



## 2. 機関数 2) 地域別増減及び 上位10か国・地域

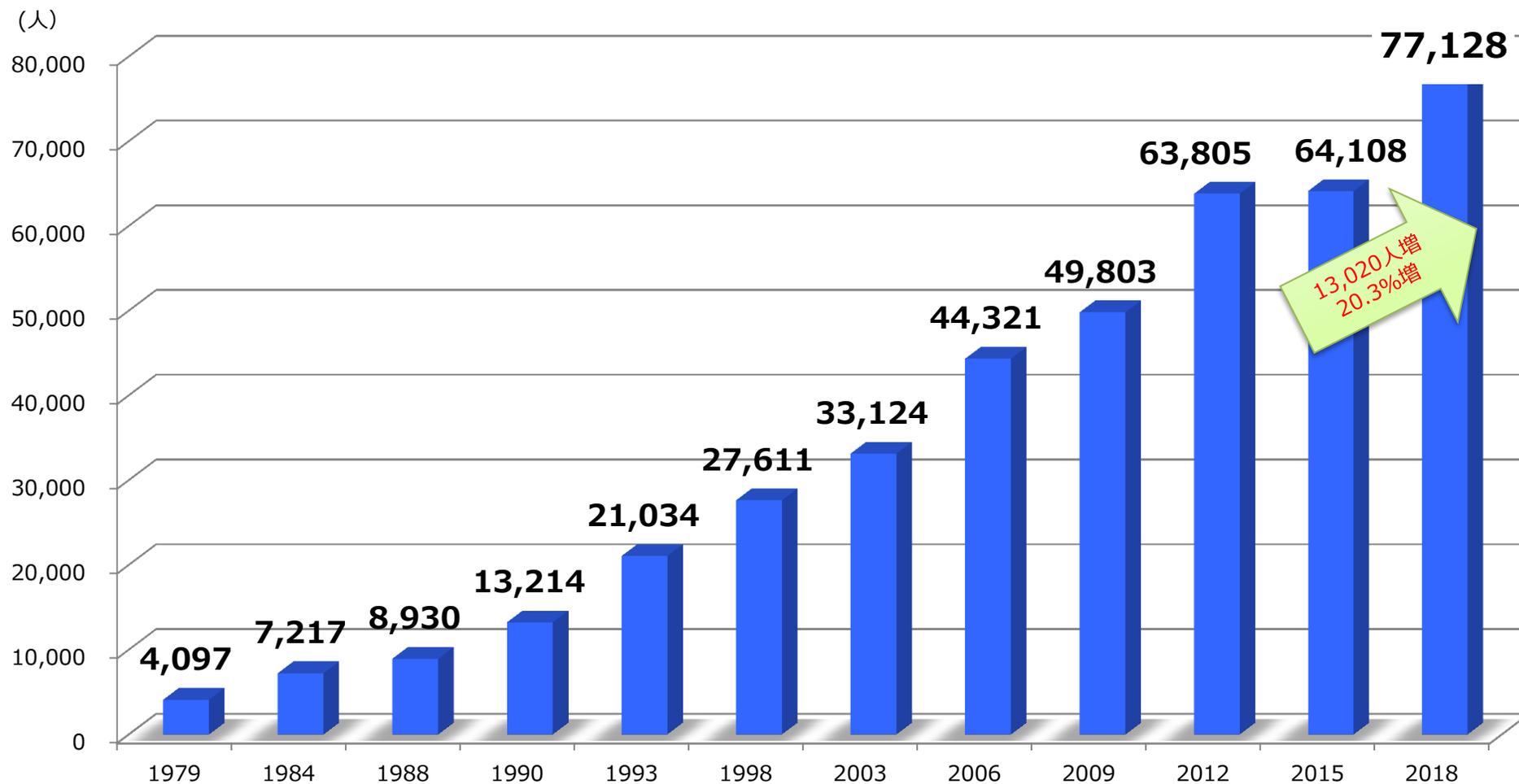


## 2. 機関数 3) 教育段階別増減

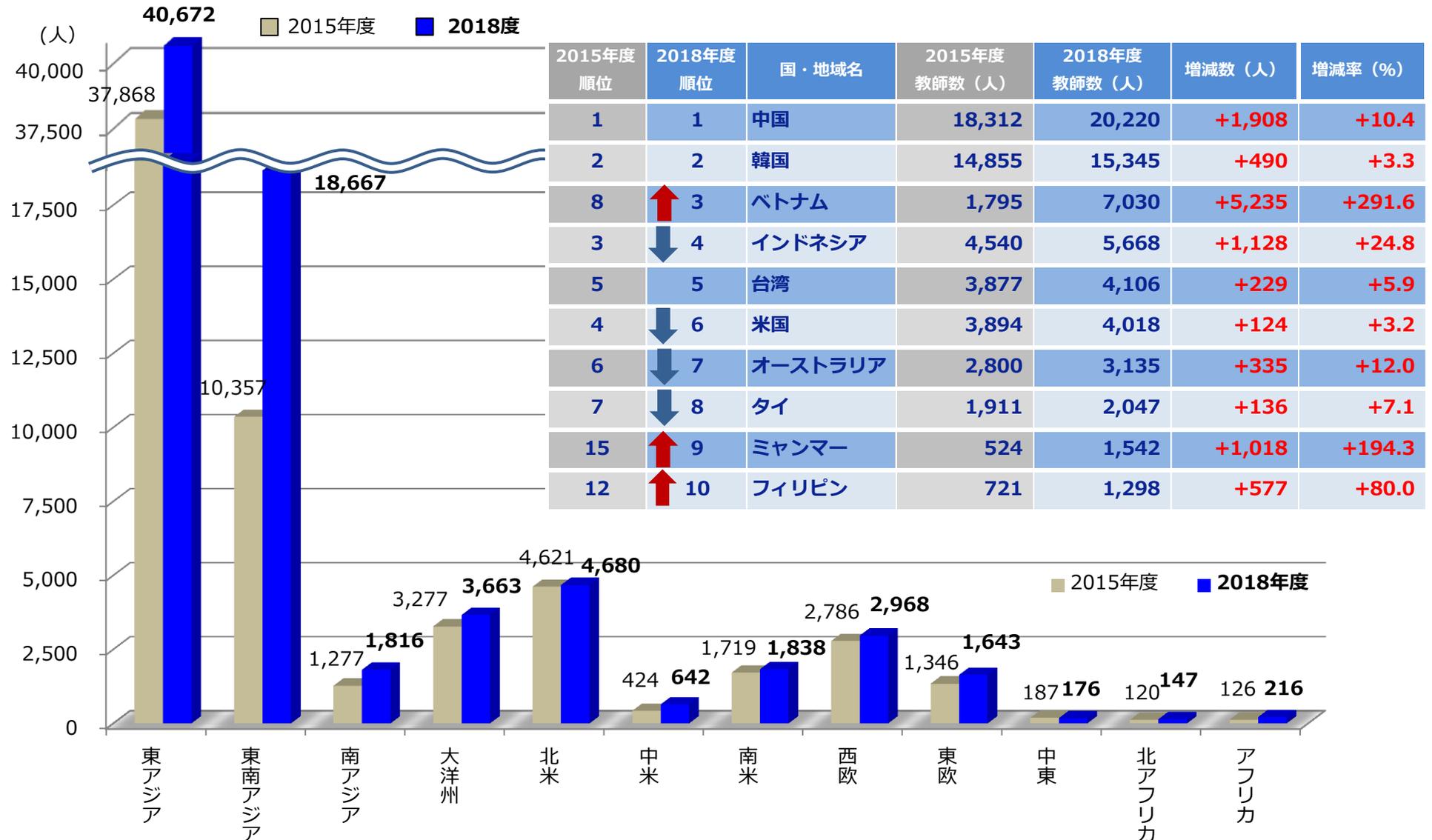


※複数の教育段階で日本語教育を実施している機関については機関数を重複して集計しているため、本グラフの各教育段階の合計数(2015年度16,822機関、2018年度19,426機関)と世界全体の合計数(2015年度16,179機関、2018年度18,604機関)は一致しない。

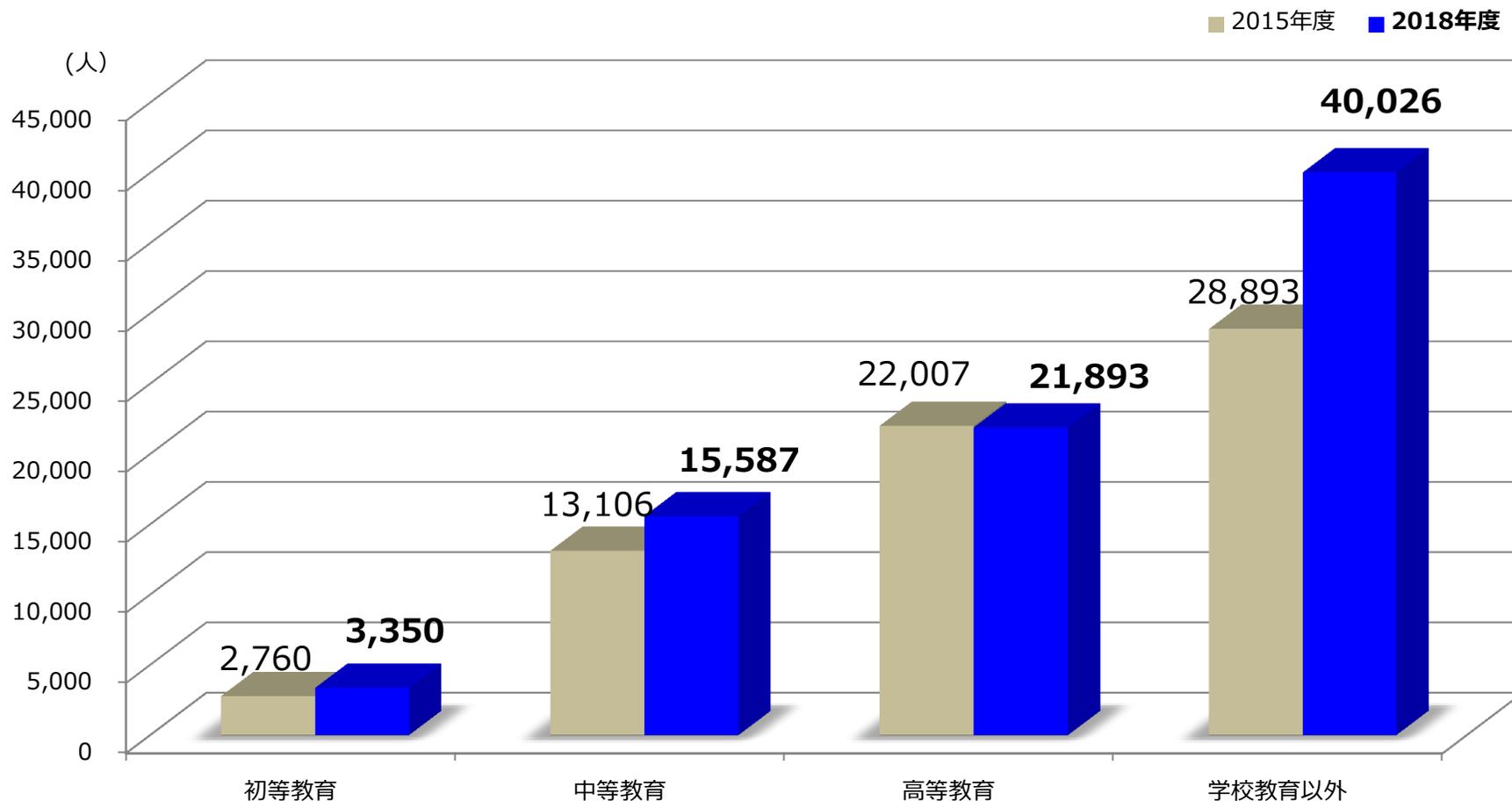
### 3. 教師数 1) 時系列推移



### 3. 教師数 2) 地域別増減及び 上位10か国・地域

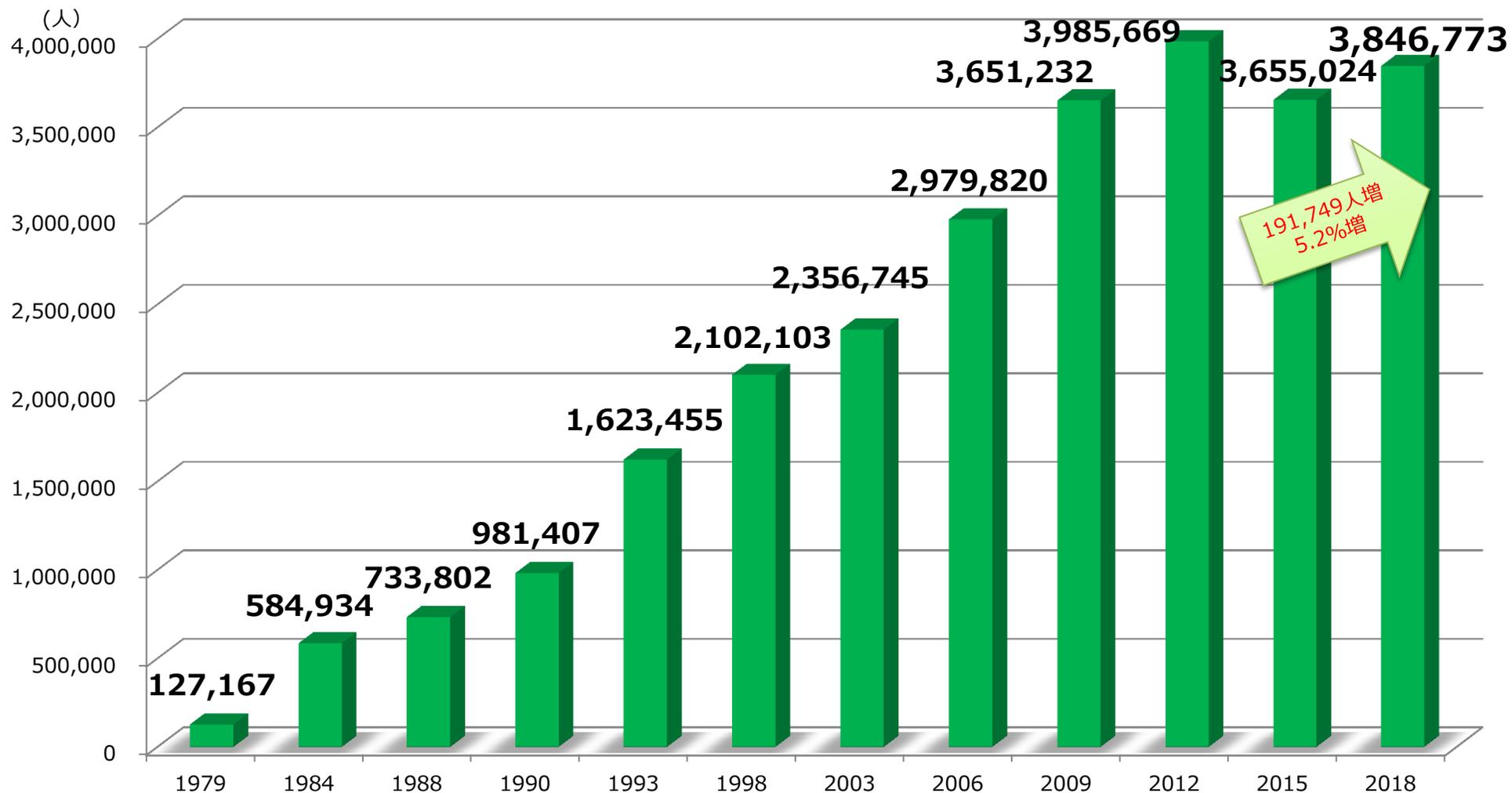


### 3. 教師数 3) 教育段階別増減

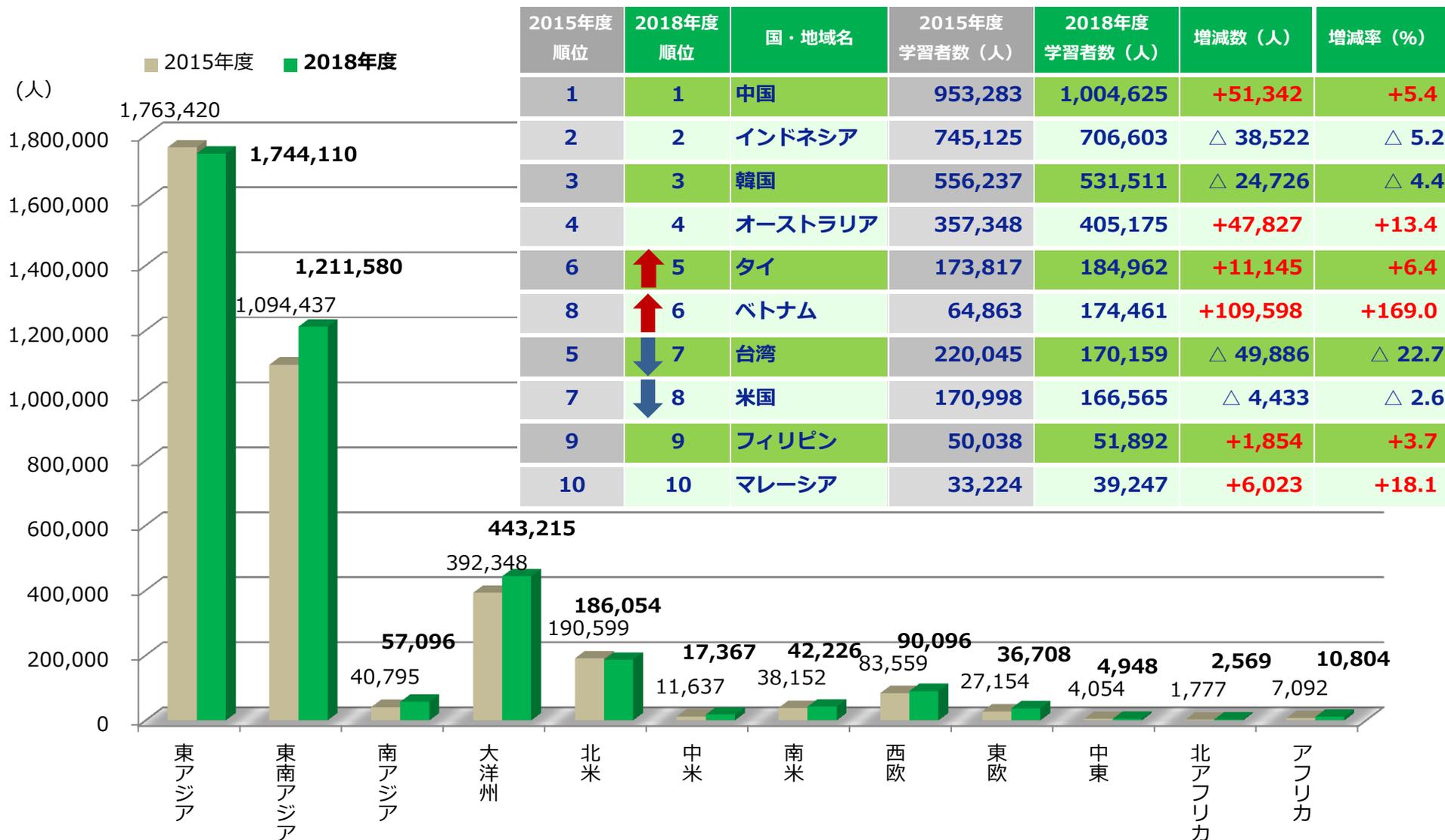


※複数の教育段階で日本語教育を実施している機関については教師数を重複して集計しているため、本グラフの各教育段階の合計数(2015年度66,766人、2018年度80,856人)と世界全体の合計数(2015年度64,108人、2018年度77,128人)は一致しない。

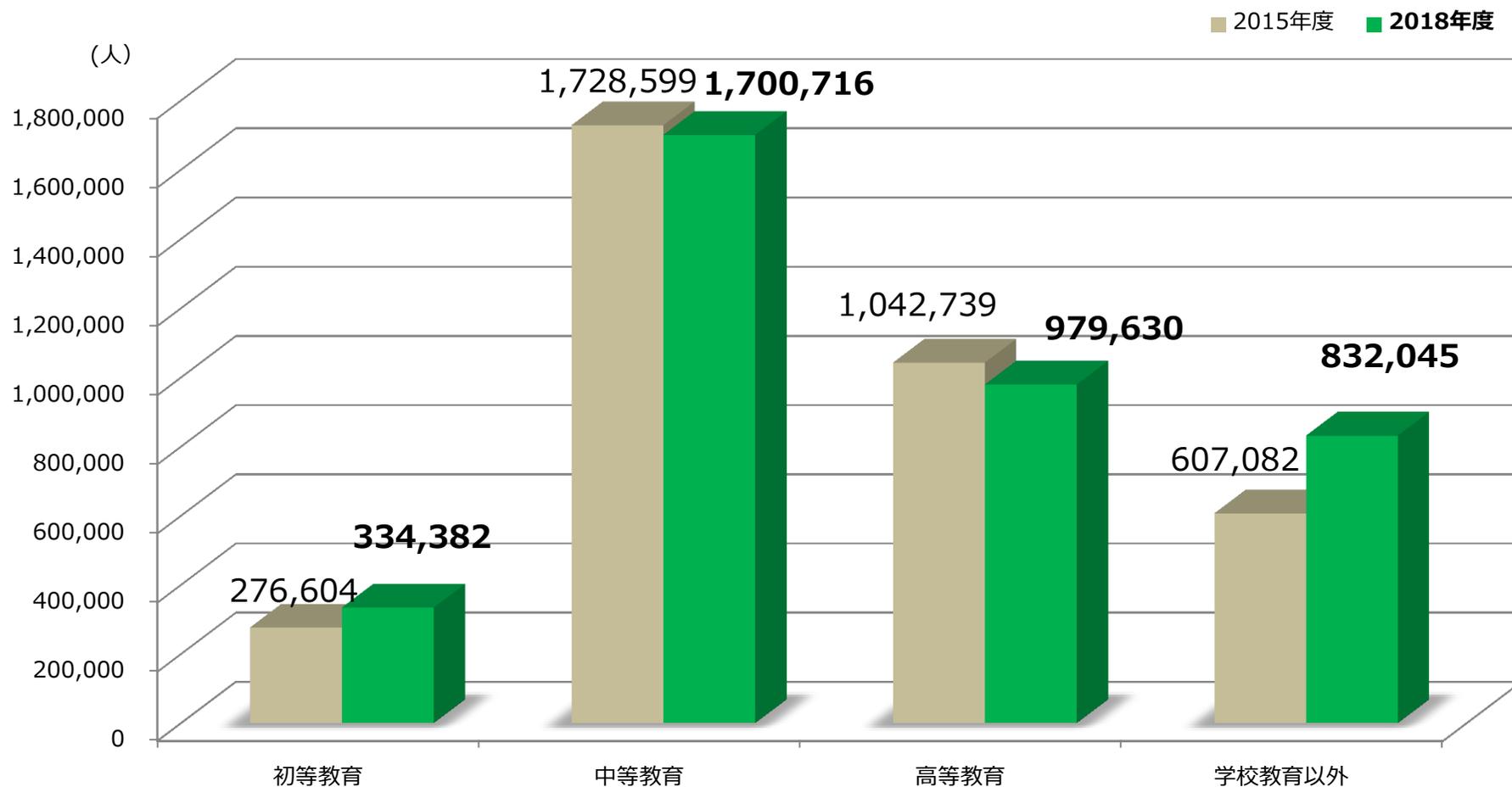
## 4. 学習者数 1) 時系列推移



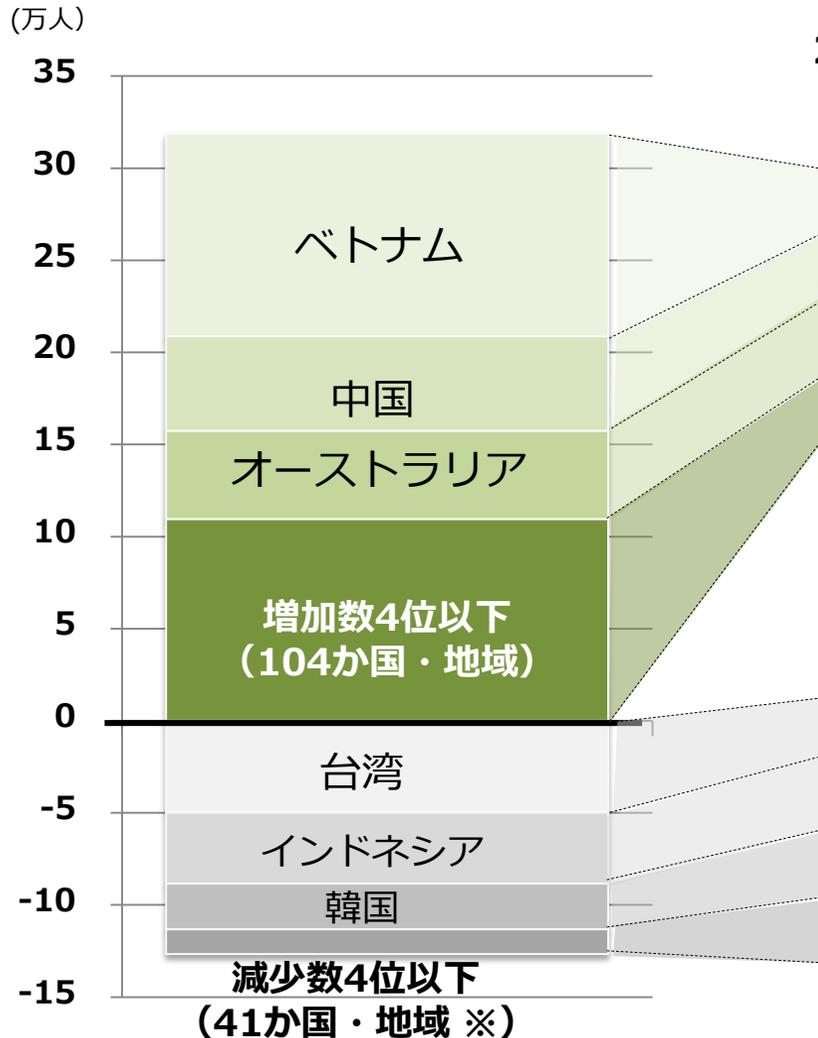
# 4. 学習者数 2) 地域別増減及び 上位10か国・地域



## 4. 學習者数 3) 教育段階別増減



## 4. 学習者数 4) 学習者数が増加、減少した国・地域



2015年度と比較して学習者数が増加した国・地域 (増加人数順)

順位	国・地域	増加人数
1	ベトナム	109,598人
2	中国	51,342人
3	オーストラリア	47,827人
4位以下	101か国・地域	109,555人
<b>計</b>	<b>104か国・地域</b>	<b>318,322人</b>

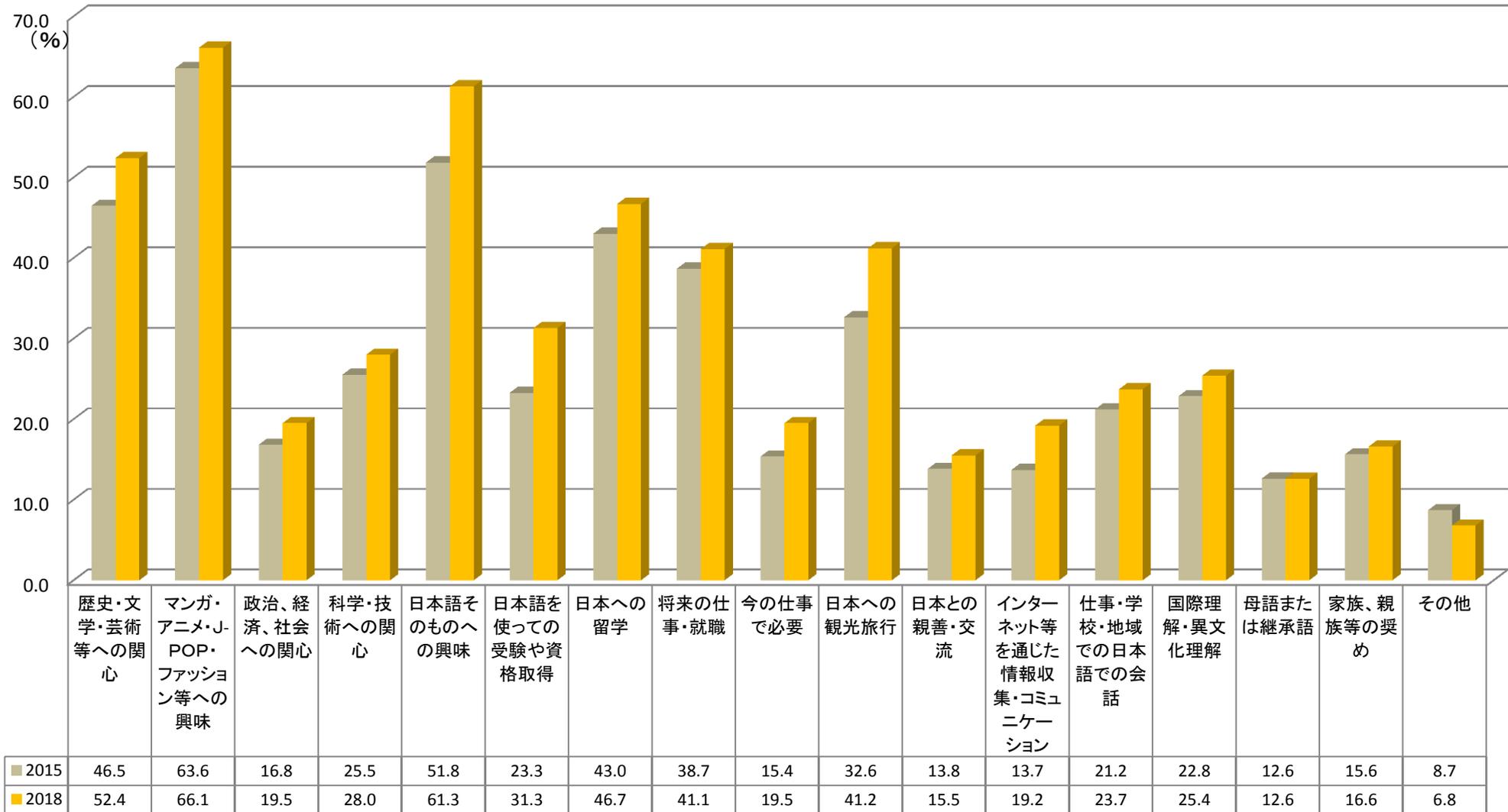
2015年度と比較して学習者数が減少した国・地域 (減少人数順)

順位	国・地域	減少人数
1	台湾	49,886人
2	インドネシア	38,522人
3	韓国	24,726人
4位以下	38か国・地域	13,439人
<b>計</b>	<b>41か国・地域 ※</b>	<b>126,573人</b>

※学習者数が減少して0人になった4か国を含む。

★学習者数が2015年度と同数だった国は1か国。

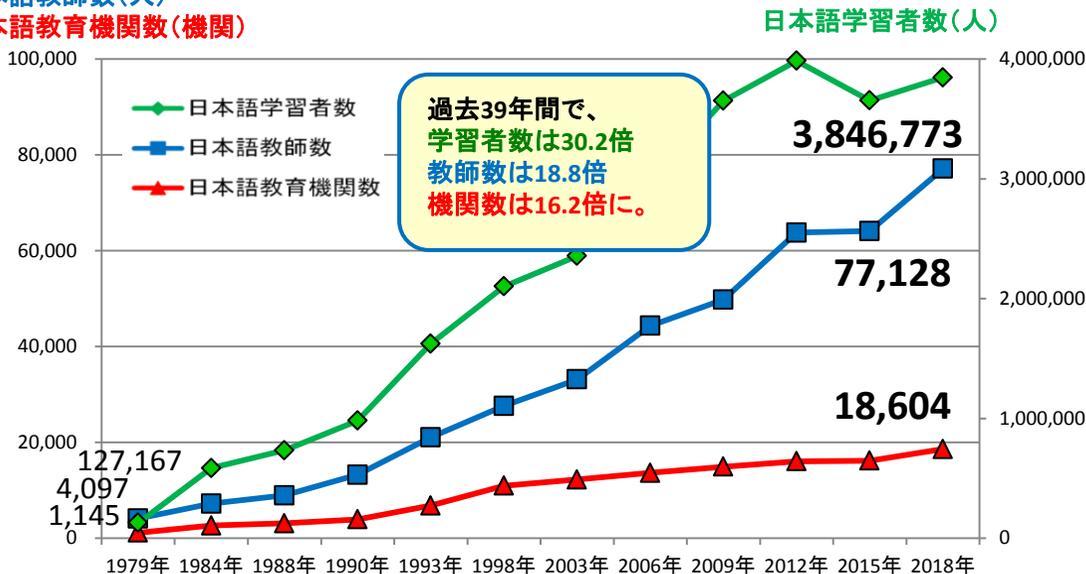
## 5. 日本語学習の目的・理由（複数回答）



# 2018年度海外日本語教育機関調査結果（速報値）の概要

## 日本語学習者/教師/教育機関数の推移

日本語教師数(人)  
日本語教育機関数(機関)



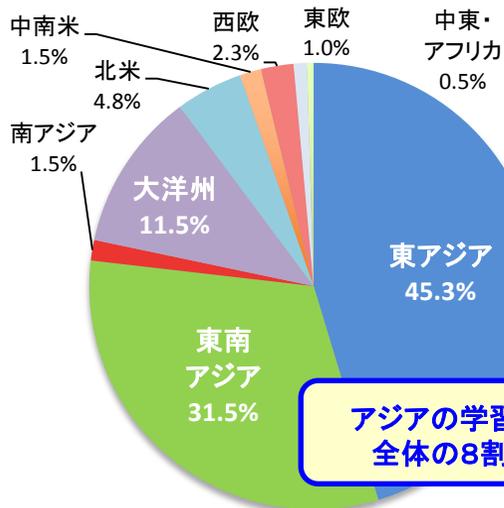
## 調査結果のポイント

1. 過去最多の142か国・地域で日本語教育の実施を確認
2. 全世界の「日本語教育機関数」と「日本語教師数」は過去最多
3. 全世界の「日本語学習者数」は再び増加し、約385万人に

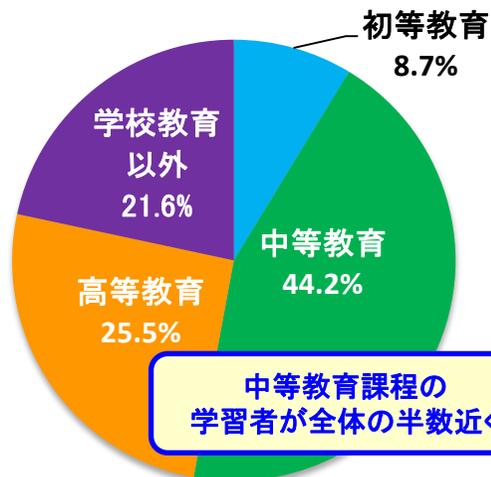
## 学習者数上位10か国・地域

	国・地域名	2018年度 学習者数(人)	増減数※ (人)
1	中国	1,004,625	+51,342
2	インドネシア	706,603	△ 38,522
3	韓国	531,511	△ 24,726
4	オーストラリア	405,175	+47,827
5	タイ	184,962	+11,145
6	ベトナム	174,461	+109,598
7	台湾	170,159	△ 49,886
8	米国	166,565	△ 4,433
9	フィリピン	51,892	+1,854
10	マレーシア	39,247	+6,023

## 地域別学習者数の割合(計385万人)



## 教育段階別学習者数の割合(計385万人)



※2015年度調査結果との比較